

# ～TANKYU～

谷地南部小学校  
校内研究だより  
2023. 6. 14  
No.16 文責 伊藤

## 失敗を経て

研究主任に「伊藤先生の失敗を、いっぱい紹介してけろ～」と言われたので書いてみます。持ち上りの今のクラスが結構好きな私の去年の失態を聞いてください。（今もかも知れませんが…）

昨年前半の授業の様子を振り返ってみると、子ども達は、話や活動に夢中になりすぎるあまり、切り替えがうまく出来ない時がありました。今思えば、夢中に学習に向かったり話が盛り上がったりののは、それぞれのペースで課題に一生懸命取り組んでいる姿だったのかもしれませんが。何も言わなくても自分で課題を見つけ、解決するために協働している姿だったのだと思います。しかし、その時の私は、理想とする姿と目の前の子ども達の姿との違いに不安や焦りを感じていました。自分のものさしで子ども達を計り、無駄に時間が過ぎていくような気がしたり思うように授業が進んでいかないような気がしたりして、不満がたまっていきました。何度か「話をしないで課題に向き合うこと」や「時間を守って取り組むこと」などについて話したのですが、改善が見られない姿に、私は次のように言って授業をやめてしまったのでした。

「先生は、みんながより良くなるために全力で支えます。だけど、やる気がない人や聞く気がない人にエネルギーを使うのは疲れるし、すごく嫌です。先生の授業が必要ないのなら、どうぞ自分たちで進めてください。」

4年生になった今、昨年度よりも私はゆとりがあります。それは、子ども達に学習を任せているからです。「自分が前に立たなくても、子どもたち自身で進める」やっていることは、去年と同じですが、今のところ上手くいっているように感じます。なぜなのでしょう。

まず、昨年度の後半から、自由進度学習やSUWなど自分達で進める学習に取り組んできたことが関係していると思います。そのため、子ども達は自分たちで進める学習のやり方を覚え、そのやり方に慣れてきました。

また、活動に目的と見通しがあるからだと思っています。去年の件は、そこに至るまでの経緯もありますが、子ども達からしてみたら、いきなりはしごを外されてどうしたらいいのかわからない状態だったと思います。しかし今は、「活動時間がどれくらいあるのか」や「いつまでどんなことをしないといけないのか」などの見通しが持てる自由（進度）学習なので、子どもたち自身にもさほど戸惑いがなく、保護者の方にも昨年ほど不安を与えていないのかなと思います。

それから、子ども達とたくさん遊んでお互いに理解できる部分が増えてきたこともあるかもしれません。一緒に体を動かして遊んだことはもちろん、教室では絵を描いている姿を見せたり、子ども達とテレビや漫画などの事を話したり、子どものピアノに合わせて歌ったり踊ったり…。先生方には到底見せられないような過ごし方をしてきました。笑

「子ども達に学習を任せる」というスタイルは、昨年も今年も同じですが、その時間が「意図したものかどうか」や「子ども達と過ごしてきた時間や関係性」によって、効果も結果も変わるのかなと感じた出来事でした。